

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	キャリアガイダンス(688)				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	大内 香那子				実 務 経 験 内 容	
					[大内] 求人情報会社にて採用コンサルティングに従事したのち、企業人事として多くの学生の選考に携わった後、キャリアコンサルタント・研修講師として活動を行っている。キャリアデザイン・ビジネスマインドセット・コミュニケーション活性を専門としており、これらの経験を活かして本授業の将来を考え、就活に前向きになるしくみを構築している。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教 室	各教室		補助教員	なし
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教 科 書 教 材	仕事力を身に付ける 20 のステップ					

授業計画・内容		
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1 回 サンクスドリルの意義と使い方 2 回～ 3 回 就活とコミュニケーションのつながりを理解する 4 回～ 6 回 意見をつくる力 7 回～ 9 回 聞く力・話す力 10 回～12 回 自己理解 13 回～15 回 仕事理解 16 回 サンクスドリル基礎学力テスト ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 1 回～ 3 回 自己 PR 作成 4 回～ 6 回 先輩トークセッション 7 回～ 9 回 就活成功 3 ケ条 10 回～ 12 回 選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験） 13 回～ 15 回 面接（個人・グループディスカッション） 16 回 サンクスドリル基礎学力テスト		

評価コード	11	
評価方法	・ 100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・ 通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・ 成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	コンピュータ基礎(690)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	林 秀聡・松田 栄代				実 務 経 験 内 容	
					[松田] システムエンジニアとして、損害保険会社のオンラインシステムや銀行の業務処理システム、Web サイトの管理システムなどの設計・構築を担当。その際の知識・経験を活かして講義をする。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	5	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
情報処理の検定試験、国家試験合格を目指す。ハードウェア、ソフトウェア、情報処理システムなど分野ごとに習熟度を高めて総合的な知識を身に付ける。身に付けた基礎知識を活かして、上級学年では応用情報技術者試験合格を目指す。						
授業形態	講義	教 室	172 教室		補助教員	なし
教科書を使用して座学形式で実施する。演習問題は適宜授業内で配布したり、ウェブの学習サイトを使用して解答したりする。学習サイトを使用する際はノート型パソコンを使用する。						
教 科 書 教 材	IT ワールド（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：3 単位時間/回 【前期】 IT ワールド 1～8 回 基本構成、データ表現、中央処理装置と主記憶装置、問題演習 11～16 回 補助記憶装置、入出力装置、情報処理システムの処理形態、問題演習 17～24 回 高信頼化システムの構成、情報処理システムの評価、問題演習 25～32 回 ソフトウェアの分類、OS、言語と言語プロセッサ、ファイル、基本情報技術者試験対策演習 IT 戦略とマネジメント 1～ 4 回 企業と法務、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ 5～ 12 回 情報システム戦略、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント 13～16 回 システム監査と内部統制、基本情報技術者試験午前対策演習 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 IT ワールド 1～16 回 基本情報技術者試験対策演習問題 17～32 回 応用情報技術者試験午前対策演習問題	

評価コード	3	
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	アルゴリズム(723)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	北畑 良祐				実 務 経 験 内 容	
					【北畑】システムエンジニアとしてアプリケーション開発業務に従事。その際の知識・経験を活かして講義をする。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
コンピュータでの処理手順をフローチャートと擬似言語で記述できるようにすることにより、プログラミングスキル向上へとつなげる。また、国家試験、各種検定で出題される問題についての対策を行う。						
授業形態	講義	教 室	配信授業	補助教員	なし	
テキストを使用し、座学形式で実施する。理解度の確認を行う目的で、問題演習を随時実施する。 理解度を深めるための授業資料（データ）も扱うので、ノート型パソコンを使う。						
教 科 書 教 材	疑似言語で学ぶアルゴリズム（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容

●授業時間：2 単位時間/回	
【前期】	
1 回	アルゴリズムと流れ図
2～3 回	変数
4～5 回	擬似言語
6～8 回	基本データ処理
9～12 回	配列
13～16 回	探索処理
●授業時間：2 単位時間/回	
【後期】	
17～24 回	整列処理
25～27 回	データ構造
28～30 回	オブジェクト指向
31～32 回	総合演習

評価コード	3	
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	プログラミング技法 I (724)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	長野 伸太郎				実 務 経 験 内 容	
					【長野】ソフトウェア開発業を開業し、メディアサイトの開発など、システムエンジニアとして数多くの案件に携わる。	
週 授 業 時 間 数	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次		
	6	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
将来の IT エンジニアとして、プログラミングは必須である。本授業では、Java（プログラミング言語）を学習する。今使われている多くの言語が、オブジェクト指向プログラミングを実現しており、Java を学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身に付け、卒業後社会で通用するプログラマを目指す。また、基本的なアルゴリズムも同時に習得し、1 年次下期または 2 年次上期の基本情報技術者試験合格を目指す。						
授業形態	講義	教 室	172 教室		補助教員	なし
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノート型パソコンを使った実習も行う。						
教 科 書 教 材	スッキリわかる Java 入門 第4版 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 プログラミング環境構築、Java プログラムの書き方（プロジェクト、クラスファイルの作成） 3～5 回 コンソールへの出力、変数宣言、リテラル、演算、演習 6～9 回 条件分岐(if 文、switch 文)、演習 10～14 回 繰り返し(for 文)、演習 15～20 回 繰り返し(while 文、do-while 文)、演習 21～27 回 二重ループ、無限ループ、演習 28～31 回 配列、演習 32～35 回 多次元配列、演習 36～40 回 メソッド、演習 40～48 回 複数クラス構成、演習 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 1～8 回 プログラム作成演習 1 9～16 回 プログラム作成演習 2 17～24 回 プログラム作成演習 3 25～32 回 プログラム作成演習 4 33～40 回 プログラム作成演習 5 41～48 回 プログラム作成演習 6	

評価コード	3
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	システムデザイン I (841)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	古谷 征志				実 務 経 験 内 容	
					[古谷]システムエンジニアとして、社内・社外の業務システムの構築・運用を担当。販売管理・物量管理・人事・給与・労務・勤怠・シンクライアント・Webシステム構築等の知識・経験を活かして、システムの要件定義から設計・運用・保守を講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
システムを構築するたされるのか知識を習得する。 SLCP（システム・ライフ・サイクル・プロセス）について、システムとはどのように構築・運用・保守されるのか。 ウォーターフォール型開発、アジャイル型開発など、各種システム設計技法の基礎知識を座学中心で学んでいく。 Web システムの概要についても。システムエンジニアとしての知識習得を目的とするとともに、基本情報技術者試験合格をはじめとした、情報処理技術者試験合格も目指す。						
授業形態	演習	教 室	172 教室		補助教員	なし
テキストを基に主に座学形式で実施し、システムエンジニアとしてのシステム設計に関する基本スキルを身につける。 また、国家資格取得を視野に入れた形の問題演習も同時に行う。						
教 科 書 教 材	IT ワールド／IT 戦略とマネジメント					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～ 6 回 システム開発技術（SLCP 開発プロセス）、演習問題 7～12 回 ソフトウェア開発技術、演習問題 13～16 回 基本情報技術者試験対策演習 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～22 回 システム開発環境、演習問題 23～28 回 Web アプリケーション開発、演習問題 29～32 回 総合演習	

評価コード	11
評 価 方 法	・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	データベース I (728)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	安藤 巧				実 務 経 験 内 容 【安藤】システムエンジニアとして社内システムの構築・運用・保守を担当。また、社内データベースサーバ構築・運用・保守にも携わっている。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	1	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
コンピュータシステムに不可欠であるデータベースについて、その基礎知識を学ぶとともに、データベースを操作する言語である SQL についても学ぶ。また、データベースの管理等の手法についても学び、システムエンジニアとして必要とされるスキルを身につける。さらに、国家資格である基本情報技術者試験取得を目指すとともに、上位資格につながる知識も修得する。						
授業形態	講義	教 室	配信授業	補助教員	なし	
テキストおよび配布資料を使用し、座学形式で行う。国家資格や各種検定取得も視野に入れながら、問題演習も実施する。定期的に小テストを行い、知識の定着を目指す。						
教 科 書 教 材	IT ワールド 教員が用意する補助教材 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1 回 初回ガイダンス、目標資格と関連資格の紹介
- 2 回 データベースの概要、問題演習
- 3～4 回 データモデル、問題演習
- 5～6 回 トランザクション処理、問題演習
- 7～8 回 E-R 図と関係 DB、問題演習
- 9～11 回 SQL、問題演習
- 12 回 いろいろなデータベース、問題演習
- 13～16 回 基本情報技術者試験 対策演習

評価コード

3

評価方法

- ・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。
- ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。
 - （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。
 - （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。
- ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理学科 1 年

科 目 名	データベースⅡ (729)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	渡 邊 学				実 務 経 験 内 容 〔渡邊〕社内 SE として教務システム・事務システムなどの構築・運用・保守を経験。データベース管理の経験を生かして講義を行う。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
データベースⅠで SQL について学んだ。 データベースⅡでは SQL をさらに深く、かつ実践的に学び、プログラマとして必要な技術の取得を目指す。						
授業形態	講義	教 室	172 教室	補助教員	なし	
テキストを使用し座学形式で実施。貸与している各自のノートパソコンを使い、実際に SQL を入力・実行することで動作を確認する。						
教 科 書 教 材	改訂第 4 版 すらすらと手が動くようになる SQL 書き方ドリル 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 1～ 6 回 1 つのテーブルを扱う 7～ 18 回 複数のテーブルを扱う 19～30 回 追加・更新・削除 31～42 回 データベースで実現しよう 43～48 回 応用問題	

評価コード	3	
評 価 方 法	・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	ネットワーク (712)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	鳥居 茂希				実 務 経 験 内 容 なし	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
ネットワーク技術の代表的なものである、インターネットや LAN についての仕組みを中心に、基礎知識を理解していく。 ネットワーク技術は、学校や企業では勿論のこと、一般家庭においても無くてはならないものとなっている。また、国家試験、各種検定で出題される問題についての対策を行う。						
授業形態	講義	教 室	配信授業	補助教員	なし	
授業は講義形式であるが、理解度を深めるためにノートパソコンを使った演習も行う。演習で使う題材は、教科書内のものだけでなく、ファイルサーバにあるものを利用する。						
教 科 書 教 材	IT ワールド(前期毎授業で使用) 図解入門 TCP/IP(後期毎授業で使用)					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～ 2 回 インターネット 3～ 5 回 ネットワークアーキテクチャ 6～ 8 回 LAN 9～ 11 回 ネットワークの仕組み 12～14 回 ネットワーク管理 15～16 回 総合演習 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 ネットワークの基礎 19～20 回 物理層 21～22 回 データリンク層 23～26 回 ネットワーク層 27～28 回 トランスポート層 29～32 回 アプリケーション層	

評価コード	3
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	Web デザイン(727)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	伊藤 七海				実 務 経 験 内 容	
					なし	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
Web サイトの制作に必要な知識（HTML と CSS）を学びます。 Web サイトの構造を表記する HTML ではユーザーが入力する画面（フォーム）記述方法、デザイン部分を表示する CSS ではモバイルサイトに対応したレイアウトの記述方法も理解していただきます。						
授業形態	実習	教 室	172 教室	補助教員	野畑 祐子	
授業はテキストに従って進める実習形式で行い、理解度を深めるためにオリジナルページの制作も行います。 また、適宜提出を行い教員側で理解度を把握します。						
教 科 書 教 材	スラスラわかる HTML&CSS の基本 SB クリエイティブ株式会社（毎授業で使用） 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1 回 HTML の基礎、制作の準備と基本の HTML 2 回 見出し、段落、リスト 3 回 リンク、パスの理解 4 回 画像の挿入 5 回 ページの部分ごとに要素をまとめる 6 回 class 属性、コメント文 7 回 2 ページ目以降の作成準備 8 回 テーブル 9 回 フォーム 10～13 回 オリジナルページの作成 14～16 回 小テスト、解説 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 前期の復習 19～20 回 CSS の基本の書式 21～23 回 CSS でページのスタイルを調整 24～26 回 フロート、テーブル、フレックスボックス 27～29 回 フォームのスタイル 30 回 モバイルサイト 31～32 回 オリジナルページの作成	

評価コード	13
評価方法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	ゼミナール I (936)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	渡邊 学				実 務 経 験 内 容 [渡邊] 社内 SE として教務システム・事務システムなどの構築・運用・保守を経験。プログラミングの経験を生かして講義を行う。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	4	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
前期は情報処理の検定や国家試験を目指したコンピュータ基礎知識の講座と検定試験向けの問題演習で IT の基礎知識を学習した後、検定受験を通じて IT スキルの向上を目指す。後期は、C#を使用した GUI アプリケーションの制作を行うことにより、プログラミングスキル向上を図る。						
授業形態	演習	教 室	172 教室	補助教員	なし	
前期は、コンピュータ基礎の教科書を使用した講義と検定試験向けの演習問題を使用する。後期は貸与 PC と教科書を使用してプログラミングを行う。						
教 科 書 教 材	IT ワールド（前期講義で使用） 作って覚える Visual C#2022 デスクトップアプリ超入門（後期授業で使用） 貸与ノート型パソコン（後期授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～4 回 セキュリティ技術について 5～18 回 情報処理技術者能力認定試験 2 級 1 部 過去問題演習 19～28 回 修了試験 過去問題演習 29～32 回 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験 過去問題演習 ●授業時間：4 単位時間/回 【後期】 1 回 Windows 用アプリケーションの基礎 Visual Studio Community 2022 の基本操作 2～4 回 プログラム作成の基本を覚える 5～6 回 「タイマー」の作成 7～9 回 「付箋メモ」の作成 10～12 回 「今日の占い」の作成 13～16 回 「間違い探しゲーム」の作成 17～27 回 オブジェクト指向プログラミングの考え方 28～32 回 「間違いボール探しゲーム」の作成	

評価コード	11	
評価方法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

工業専門課程 情報処理科 1 年

科 目 名	Windows 実習 I (934)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	新美 あゆみ				実 務 経 験 内 容	
					なし	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
パソコンの基本操作から Excel・PowerPoint の様々な機能や活用方法など基本的技術と知識を実習形式で学習します。 前期 Excel・後期 PowerPoint と、それぞれ資格取得を目指し、就活に役立てます。 また、テキストの内容終了後には、身につけた Office ソフトの基本的技術と知識を活かし、実際の仕事で応用が利くよう、実務をイメージした補足資料を配布し、演習を行います。						
授業形態	実習	教 室	172 教室	補助教員	野畑 祐子	
授業は実習形式であり、実習は、配布しているノート型パソコンを使用する。						
教 科 書 教 材	Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 対策テキスト& 問題集 Microsoft Office Specialist MOS PowerPoint 365 対策テキスト& 問題集 貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 【Excel】 1 回 Windows の基本的な使い方・テキスト事前学習 Excel 基本操作 2～ 4 回 出題範囲 2_セルやセル範囲のデータの管理 5～ 8 回 出題範囲 4_数式や関数を使用した演算の実行 9 回 出題範囲 3_テーブルとテーブルのデータの管理 10 回 出題範囲 5_グラフの管理 11～12 回 出題範囲 1_ワークシートやブックの作成と管理 13～16 回 模擬演習 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 【PowerPoint】 1 回 スライド作成の基本操作 2～ 3 回 出題範囲 3_テキスト・図形・画像の挿入と書式設定 4～ 5 回 出題範囲 4_表・グラフ・SmartArt・3D モデルの挿入 6 回 出題範囲 5_画面切り替え・アニメーションの設定 7 回 出題範囲 2_スライドの管理 8～ 9 回 出題範囲 1_プレゼンテーションの管理 10～12 回 模擬演習 13～16 回 総合演習	

評価コード	13	
評価方法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	